

早稲田大学 文化構想学部 英語 講評

〔総合分析〕

出題形式	マーク・記述併用
試験時間	90分
特徴・その他	大問5題はサンプル問題、昨年の問題と同じ。量は昨年とほぼ同じ。レベルは、の会話問題の選択肢がかなり難しくなったのと、の要約問題がややまとめにくくなったという意味で、やや難化したか。とにかく、全体としては高得点の争いになると思われる。

〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
	英文読解	量、レベルとも昨年並み。(A)はかなりわかりやすい英文で、選択肢もほとんど紛れがなかったが、(B)がややわかりにくかったかもしれない。早稲田が得意とする Indeed や instead をヒントにした受験生もおられたであろう。	やや易
	英文読解	量、レベルとも昨年並みか。の要約問題が待っているため、こここそ速度勝負の大問であろう。	やや易
	英文読解	量は昨年より若干減り、レベルも昨年より下がったと言えるだろう。ただ、昨年は these や it、this などの代名詞や In particular など目印になるものが多かったが、今回はそれが少なめ。純粋に内容から答えを導くパターンはサンプル問題に戻った感じだ。	やや易
	会話文	昨年が非常に簡単だった反動でかなり難化した。確信を持って答えられない箇所があったかもしれないが、あまり心配する必要はないだろう。全問正解は難しい。	やや難
	要約	まとめにくかったという意味でやや難化したか。ひとつの段落で構成された文章という意味では昨年と同じだが、昨年は、最初に主題と結論があって、その後に具体的説明が述べられていたので、非常にまとめやすかった。今回はそのようなパターンになっていなかった。さらに、今回は in your own words の部分に下線が引かれていた。本文にある語をあまり使わないほうが無難だ(ただ、ある程度使わざるを得ないが)。見落としがちな部分だ。	やや難